



TITLE:

京大広報 No. 744

AUTHOR(S):

京都大学総務部広報課

CITATION:

京都大学総務部広報課. 京大広報 No. 744. 京大広報 2019, 744: 5248-5271

ISSUE DATE:

2019-07-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/243551>

RIGHT:

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



※ P5250 参照



※ P5269 参照



※ P5257 参照

2019.7
No. 744

目次

[大学の動き]

- 部局長の交替等 5249
- 2022年の創立125周年に向けて「シンボルマーク」
等を決定 5249
- 京都大学春秋講義（平成31年度春季講義）を開催 5250
- クロックタワーコンサートを開催 5250
- 第74回京都大学未来フォーラムを開催 5251
- 第6回STSフォーラム ASEAN-Japanワークショップ
に稲葉カヨ理事・副学長が出席 5252
- 令和元年度 総長裁量経費採択事項 5253

[部局の動き]

- 子宮頸がんの予防を目指した医師主導治験の開始 5257
- 本庶 佑 特別教授ノーベル生理学・医学賞受賞
お祝いの会を開催 5257

[寸言]

- 京大への想い 久保 哲也 5260

[随想]

- 今の京大と社会に願うこと：時代の風潮に流されず
自由と寛容と独立を堅持して多様な若者を育てる
熱意 5262
- 名誉教授 中辻 憲夫

[洛書]

- 相棒は万年筆 米澤 進吾 5264

[話題]

- 平成30年病院長賞表彰式を挙行 5266
- 2019年度宇治キャンパス新任教職員および
新入院生等のための安全衛生教育を開催 5267
- 宇治おうばくプラザで「第10回記念たそがれ
コンサート」を開催 5268
- 2019年度も新入生が、胸骨圧迫とAEDの使い方
を学びました！ 5269

[訃報]

- 片山 健一 名誉教授 5271



京都大学



大学
の
動き

部局長の交替等

(新任)

京都大学オープンイノベーション機構長

7月1日付けでオープンイノベーション機構が設置され、阿曾沼慎司 理事が機構長として、同日付けで指名されました。任期は、令和元年7月1日から令和2年9月30日まで。

[目次に戻る ↗](#)

2022年の創立125周年に向けて「シンボルマーク」等を決定

京都大学は、2022年6月18日(土)に創立125周年を迎えます。これを新たな飛躍の契機とすべく、「スローガン」、「ステートメント」、「シンボルマーク」を決定し、3年前となる本年6月18日(火)に創立125周年記念事業特設サイトを開設しました。

特設サイトURL: <https://125th.kyoto-u.ac.jp>

シンボルマークは、学内外より広く公募を行い、282件の応募の中から審査の結果、決定しました。このシンボルマークは、125の「1」の部分京都大学のシンボルである時計台に見立てることで、125年の歴史のみならず、京都という土地の持つ1200年に及ぶ時の累なりと、そこに流れる人文知・自然知の脈脈を暗示します。

躍動感のある立体的なビジュアルは、未来へ向かい真理を探究し、地球規模の課題解決に敢然と立ち向かう姿勢を表しています。

スクールカラーの濃青を使用することで、京都大学ならではの教育と研究により、国際社会に通用する人材を輩出していく強い意思を示しています。

特設サイトでは、本学の歴史を振り返るだけでなく、特徴ある学問・研究や多方面で活躍する同窓生を紹介していきます。また、今後、3年かけてコンテンツを充実させるとともに、125周年記念事業の詳細や進捗状況など、さまざまな情報を発信していきます。

(総務部(広報課))

[目次に戻る ↗](#)ANNIVERSARY
KYOTO UNIVERSITY

公募によって選ばれたシンボルマーク

大学の
動き

京都大学春秋講義（平成31年度春季講義）を開催

京都大学春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資源について、広く学内外の人々と共有を図るため、1988（昭和63）年秋から開講している公開講座です。

4月30日で平成時代が終わることから、今回は、メインテーマを「平成を振り返って－日本を取り巻く世界の変化」として3回講義を行いました。

1回目の4月10日（水）は待鳥聡史 法学研究科教授による「「平成」のアメリカ政治－その展開と日本への影響」、2回目の4月15日（月）は帯谷知可 東南アジア地域研究研究所准教授による「ソ連解体と中央ユーラシア研究－開かれたフィールド、資料、協働の可能性」、3回目の4月24日（水）は石川禎浩 人文科学研究所教授による「大国への歩み－中国共産党の30年」と題して講義を行いました。3日間で1,072名の参加があり、大変盛況な講演会となりました。

参加者からは、「現代のアメリカ政治について理解が深まったと同時に、大統領制が抱える問題点や日本がアメリカと向き合う際の考え方など非常に示唆に富むもので知識が増えた」、「ソ連解体後の中央ユーラシアの研究についての深い分析と現代的視座が豊富に語られ、ますます興味を惹き起された」、「中国共産党の30年を振り返ることで今日の中国社会を理解し考えていく上でのキーワードが見えてきたようで興味深かった」などの感想が寄せられ、また3回とも受講した参加者からは「現在の世界情勢を知る上で3回のシリーズはタイムリーで大変役立った」との感想が寄せられました。

（総務部（渉外課））

[目次に戻る](#)



会場の様子

クロックタワーコンサートを開催

京都大学と京都市立芸術大学が主催して毎年開催している「クロックタワーコンサート～京都大学と京都市立芸術大学による交流の午後～」を、5月18日（土）に百周年時計台記念館にて開催しました。今回は、「コンサート&レクチャー“古典?『新』古典!?”と題し、栗辻聡 京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師による解説・指揮と京都市立芸術大学大学院指揮専攻の佐々木奏平さんの指揮のもと、同大学アカデミーオーケストラの演奏で、コンサートが行われました。

コンサートでは、京都市立芸術大学の赤松玉女 学長と本学の森田正信 理事が開会の挨拶を行った後、E.グリーグの「ホルベルク組曲」作品40から前奏曲、J.ハイドンの交響曲第6番「朝」およびI.ストラヴィンスキーの「プルチネルラ」が披露されました。曲の合間には、奏者の感想を交えた栗辻講師のレクチャーもあり、最後の楽曲が終わると、若さ溢れる清々しい演奏に惜

大学の
動き

しみない拍手が送られ、熱気と余韻に包まれたままコンサートは終了しました。

参加者からは、「初夏にぴったりの爽やかな曲ばかりで、聴いていて心地良かった」、「初めて聞く曲ばかりでしたが、学生のみなさんの堂々とした演奏に感動した」、「曲の隠された視点を気付かせてもらい、よかった」、「解説を聞いてからオーケストラ



コンサートの様子

の演奏を聞くとさらに興味がわき、細部にわたって楽しむことができた」、「ステージバックの新緑が美しく、演奏を盛り上げていた」などの感想が寄せられました。

(総務部 (渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

第74回京都大学未来フォーラムを開催

今回の京都大学未来フォーラムは、文学部卒業生で関西大学人間健康学部の森下伸也 教授を迎え、6月3日(月)に百年時計台記念館において開催しました。

「笑いの花咲く国へ」と題した講演の中で森下教授は、柳田国男の『笑の本願』から引用しながら、「日本人はよく笑う民族」であるとして、各時代の多数の笑顔の聖像や地方に残る笑いの祭り、また宗教が笑いへと変遷していった事例を紹介し、日本の宗教と笑いとの関わりについて説明をしました。そして、江戸時代から明治以降の近代化により日本人が失った江戸時代以前の陽気さを取り戻すこと、「ストレス社会」から「脱力系社会」に立ち戻ることこそ、現代日本の多くの問題を解決する手掛かりになるのではないかと述べました。



講演する森下教授

参加者からは、「日本の歴史の中で「笑い」が大切にされているとは初めて知りました。「笑い」



会場の様子

を取り入れたさまざまな神事が非常に面白かったです」、「笑いというものが幸福と強くつながりをもつものとして受容されているのだということがよく理解できた」、「笑いと言文化が融合していることに深い感銘を受けました。またそれを笑いながら聴けてとても良かったです」などの感想が寄せられました。

(総務部 (渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

第6回 STSフォーラム ASEAN-Japan ワークショップに 稲葉カヨ 理事・副学長が出席

4月23日(火)にシンガポールのグランド・コプソーン・ウォーターフロント・ホテルにて第6回 STSフォーラム ASEAN-JAPAN ワークショップが開催され、本学からは稲葉カヨ 理事・副学長が出席しました。

本会議は、STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関するフォーラム)が毎年ASEANで開催するワークショップで、日本・ASEAN 双方から産官学の代表者らが参加し、ネットワークづくり、現在の課題についての話し合い、国際社会のニーズに応えるための科学技術協力の可能性を探る場となっています。

今回は、STSフォーラム、シンガポール科学技術研究庁(A*STAR:シンガポール通商産業省が統括する法定機関)、日本貿易振興機構(JETRO)による共催、在シンガポール日本国大使館の後援により開催されました。ASEAN諸国や日本の大学、研究機関、政府関係機関、企業から合わせて130名以上が参加しました。

会議は、尾身幸次 STSフォーラム創設者兼理事長およびA*STARのChan Lai Fung 議長による開会の挨拶で始まりました。続いて山崎 純 駐シンガポール日本国大使、JETROの入野泰一 理事による挨拶がありました。

会議は2部構成の発表・討論形式で行われ、午前のセッション1では「日本・ASEAN間の科学・技術協力:人材育成と頭脳循環」について、午後のセッション2では「製造業の未来」について議論されました。各セッションでは、9~10名の参加者のプレゼンテーションの後、グループによるディスカッションと発表が行われました。

稲葉理事・副学長は午前のセッション1で、国連の持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けての科学技術開発および人材開発において大学が果たすべき役割について発表を行いました。発表の中で稲葉理事・副学長は、京都大学が携わるASEAN地域での共同研究であるイ



講演する稲葉理事・副学長



全体写真(2列目右から3番目が稲葉理事・副学長)

大学の
動き

インドネシア泥炭地に関する40年にわたる研究プロジェクト、および、防災、生物資源・生物多様性、環境・エネルギー分野を焦点とする日ASEAN科学技術イノベーション共同研究拠点（JASTIP）における持続可能開発研究の推進の2つの取り組みを紹介しました。

次回、第7回STSフォーラムASEAN-JAPAN ワークショップは2020年にマレーシアで開催予定です。また、第16回STSフォーラム年次総会は2019年10月6日（日）～8日（火）に京都で開催される予定です。

（企画・情報部（国際交流課））

[目次に戻る](#)

令和元年度 総長裁量経費採択事項

令和元年度の総長裁量経費については、下記の45件が採択されました。

採択事項および対象部局等は次のとおりです。

採択事項名	部局名	関連部局
卓越した課程博士論文の出版助成事業	文学研究科・文学部	
若手研究者出版助成事業	教育学研究科・教育学部	
若手研究者に係る出版助成事業	法学研究科・法学部	
グローバル化の中での比較法文化論	法学研究科・法学部	東南アジア地域研究研究所、 こころの未来研究センター
国際共同学位プログラムの構築準備と国際連携教育研究環境の整備	経済学研究科・経済学部	
若手研究者の優秀学位論文等出版事業	経済学研究科・経済学部	
地球惑星科学における国際化の推進	理学研究科・理学部	防災研究所、 生存圏研究所、 学際融合教育研究推進センター
天文台施設を活かした教育研究の情報発信事業	理学研究科・理学部	学際融合教育研究推進センター
感染症の予防医学研究のための環太平洋ネットワーク研究体制の構築	医学研究科・医学部	
研究志向人材育成のための能動学習から深層学習への接続	薬学研究科・薬学部	高等教育研究開発推進センター
工学部教育における大大接続の充実を目指した実験環境整備事業	工学研究科・工学部	
森林資源の効率的な利用技術を体得させる教育推進事業	農学研究科・農学部	
食料・環境・農業に関する人文・社会科学領域の学位論文に対する出版助成事業	農学研究科・農学部	

大学の
動き

採択事項名	部局名	関連部局
若手研究者出版助成制度	人間・環境学研究所・ 総合人間学部	
フィールド・ステーションを活用した海外安全管理研修	アジア・アフリカ 地域研究研究科	東南アジア地域研究研究所, アフリカ地域研究資料センター, 農学研究科, 理学研究科, 文学研究科, 医学研究科, 霊長類研究所, 野生動物研究センター
シンポジウム「諸科学における数理・データサイエンス教育の現状と展望」開催	情報学研究科	国際高等教育院
English-Taught Degree Program へ繋ぐ世界基準インターンシッププログラム	生命科学研究科	ウイルス・再生医科学研究所, 高等研究院
学生が主体的に企画し世界に向けて英語で執筆する書籍「総合生存学とSDGs」の出版事業	総合生存学館	
日本人学生・留学生の交流・参画による「NO More PET ボトル」キャンパス化プロジェクト	地球環境学堂	環境安全保健機構
アジア新興国からの優秀な国費留学生獲得事業	化学研究所	エネルギー理工学研究所
文芸理融合のための人的プラットフォーム形成	人文科学研究所	地球環境学堂, こころの未来研究センター, 総合博物館
若手研究者による人文科学諸分野の優れた研究成果の刊行助成事業	人文科学研究所	
生存圏科学ディシプリンの社会的普及	生存圏研究所	
世界気象機関（WMO）と連携した発展途上国気象局職員的能力開発	防災研究所	工学研究科
国際・拠点連携を用いた次世代若手研究者育成事業	経済研究所	経済学研究科, 公共政策連携研究部
伴侶動物に対するホウ素中性子捕捉療法の適応に関するシンポジウム開催	複合原子力科学研究所	
動物の行動と認知に関する国際学生シンポジウムの開催	霊長類研究所	野生動物研究センター, 理学研究科, 文学研究科, 教育学研究科, 人間・環境学研究所, 高等研究院, 学際融合教育研究推進センター
東南アジア研究に関わる若手出版助成	東南アジア地域研究研究所	

大学の
動き

採択事項名	部局名	関連部局
「地域研究情報資源の共有化をめざして」ハノイワークショップ&国際シンポジウム開催	東南アジア地域研究研究所	学術情報メディアセンター, 附属図書館, 学術研究支援室
京都大学附属図書館所蔵「中井家絵図・書類禁裏之部」インターネット公開による京都の宝の世界発信	附属図書館	
認知症に対する音楽療法の確立に向けた脳科学と音楽の融合研究	医学部附属病院	医学研究科
自学自習の促進に向けたエビデンスに基づくデジタル教材推薦システムの研究開発	学術情報メディアセンター	附属図書館, 情報学研究科, 国際高等教育院
ICOM 京都大会に向けた歴史文化コンテンツの市民参加型活用プラットフォームの開発	総合博物館	
教育関係共同利用拠点－調査フィールドをグローバル人材育成につなげる双方向映像インフラ	フィールド科学教育研究センター	農学研究科, 理学研究科, 人間・環境学研究科
森里海連環学に基づいた持続可能な開発目標(SDGs)達成に貢献する次世代人材育成	フィールド科学教育研究センター	学際融合教育研究推進センター, 農学研究科, 地球環境学堂, 総合生存学館, 人間・環境学研究科
SNS カウンセリングシステム・理論・技法の構築－臨床知とデータサイエンスの融合－	こころの未来研究センター	学生総合支援センター, 教育学研究科, 情報学研究科
人と野生動物の共存に向けた社会連携事業	野生動物研究センター	
ボルネオ・フィールドスクール：高校生－大学生－大学院生をつなぐアジア類人野外実習	高等研究院	野生動物研究センター, 霊長類研究所
アフリカ・オフィスを活用した教育・研究・広報・社会貢献事業の国際化推進と拠点化	アフリカ地域研究資料センター	学際融合教育研究推進センター, 国際戦略本部
京都大学アフリカ研究出版助成	アフリカ地域研究資料センター	医学研究科, 農学研究科, 工学研究科, 理学研究科, 文学研究科, 法学研究科, 経済学研究科, 教育学研究科, 人間・環境学研究科, アジア・アフリカ地域研究研究科, 地球環境学堂
OJT による広報ノウハウ共有・強化事業	事務本部（総務部）	

大学の
動き

採択事項名	部局名	関連部局
学術分野越境推進による若手研究者研鑽活動と未踏領域創出	学際融合教育研究推進センター	
全学海外拠点を通じた戦略的ネットワーク構築事業	国際戦略本部	学術研究支援室
京都大学の大学保健におけるリーダーシップ推進事業	環境安全保健機構	医学研究科, 学術情報メディアセンター
BXAI Summer Program 2019 京都大学－百賢亜州研究院サマープログラム実施事業	事務本部（教育推進・学生支援部）	農学研究科

（財務部（財務課））

[目次に戻る ↗](#)



子宮頸がんの予防を目指した医師主導治験の開始

濱西潤三 医学部附属病院講師（産科婦人科）、萩原正敏 医学研究科（形態形成機構学）教授らの研究グループは、子宮頸がんの前癌病変である子宮頸部上皮内腫瘍（CIN1もしくは2）に対する低分子化合物FIT039の有効性と安全性を検討する医師主導治験を開始しました。

子宮頸部上皮内腫瘍（Cervical Intraepithelial Neoplasia：CIN）は、そのほとんどがヒトパピローマウイルス（HPV）に持続的に感染することによって引き起こされる病変です。子宮頸がんは子宮頸部に発生するがんで、わが国での1年間の罹患数は約1万人程度ですが、20～40歳前後の比較的若い年齢層で罹患数が最大となります。

子宮頸がんのうち、子宮頸部の扁平上皮がんは、異形成（CIN）を経てがんになることがわかっています。CINは軽度（CIN1）、中等度（CIN2）と高度病変（CIN3）に分けられます。

そこで私たちは、HPVの増殖を抑える低分子化合物FIT039を用いて、CIN1あるいはCIN2を治療することにより、子宮頸がんの予防を目指し、医師主導治験の計画を進めてきました。

そして2月4日（月）に医薬品医療機器総合機構（PMDA）に治験計画届を提出し、医師主導治験を開始しました。

<相談窓口について>

不明点等は、以下相談窓口までお問い合わせください。なお、2019年7月現在、CINの患者さんの治験への登録はしていません。

京都大学医学部附属病院 相談支援センター

電話：075-751-4748

メール：ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

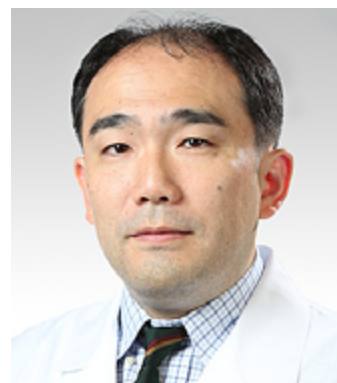
対応時間：午前9時～午後5時

※土・日・祝、年末年始、創立記念日（6月18日）を除く

https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/support_center.html

（医学部附属病院）

[目次に戻る](#)



濱西講師



萩原教授

本庶 佑 特別教授ノーベル生理学・医学賞受賞お祝いの会を開催

本庶 佑 高等研究院副院長・特別教授のノーベル生理学・医学賞受賞を祝し、お祝いの会を3月27日（水）に京都ブライトンホテルにて開催しました。

オーケストラの祝賀演奏で幕を開けたお祝いの会は、最初に森 重文 高等研究院院長から、「ご所属先である高等研究院主催のこの会は、本庶特別教授とご縁の深い皆様とともに集い、

部局の
動き

温かくお祝いできる時間としたい」と主催者代表挨拶がありました。続いて山極壽一 総長，西脇隆俊 京都府知事，門川大作 京都市長，里見 進 日本学術振興会理事長から，これまでの本庶特別教授とのそれぞれのエピソードを含めた楽しくかつ感慨深い祝辞が述べられました。また，文部科学省，厚生労働省からの祝辞も披露されました。会にはご来賓の方々や関係機関の代表者・研究者のほか，京都大学から役員，部局長をはじめとした教職員など，合わせて150名が出席しました。

会場には，スウェーデンでの授賞式においてグスタフ国王から本庶特別教授に手渡されたノーベル賞のメダル，賞状と，ノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶特別教授らの研究を紹介するノーベル財団公式ポスターが展示され，また，10月1日(月)の受賞者発表の瞬間から授賞式，京都大学での行事等の本庶特別教授の動きを追ったスライドショーが上映されました。

会の後半には本庶特別教授が，「免疫の力でがんを治せる時代」と題し，本年1月に皇居で行われた講書始の儀でご進講された内容にスライド説明を加えて特別レクチャーを行い，研究成果の人類への貢献の軌跡と今後への期待をあらためて考える機会となりました。



スーパーキッズ・オーケストラの祝賀演奏



森高等研究院院長の主催者代表挨拶と本庶特別教授



山極総長の祝辞



西脇府知事の祝辞



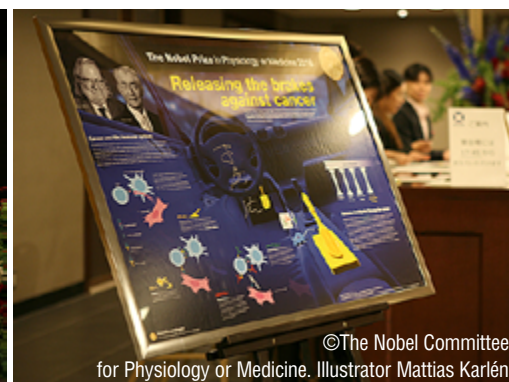
門川市長の祝辞



里見理事長の祝辞



ノーベル賞賞状とメダルの展示



ノーベル財団公式ポスター

部局の
動き



松沢哲郎 高等研究院副院長・特別教授の乾杯挨拶



本庶特別教授の特別レクチャー



湊プロボスト 理事・副学長の閉会挨拶



お祝いの会の出席者

お祝いの会の出席者から本庶特別教授への受賞記念の品が、高等研究院職員の代表によって贈呈された後、本庶特別教授は出席者への謝辞の中で、「京都大学のおおらかな学風の中で好きな研究を続けることができた。これからは若い人を育てることに全力を尽くし、少しでも恩返しをしたい。」と述べました。

共同研究者でもある湊 長博 プロボスト 理事・副学長からの閉会の挨拶では、スウェーデンで本庶特別教授が行ったノーベルレクチャーにノーベル賞関係者からも大きな賛辞が送られたことなどが紹介され、閉会の後も本庶特別教授がお祝いに訪れる方々に囲まれる、大変温かい会となりました。

【関連リンク】

本庶佑特別教授 ノーベル生理学・医学賞受賞について (高等研究院) :

https://kuias.kyoto-u.ac.jp/j/news/2018/12/26_ns

(高等研究院)

[目次に戻る ↗](#)

寸言

京大への想い

久保 哲也



大学を卒業して43年、銀行から証券会社と金融界に身を置いてきた私の京大に寄せる想いを僭越ながら述べてみたいと思います。

私が鹿児島島の田舎から京大を受験しようと思ったのは京都の歴史や自然環境、京大の何となく自由な学風に触れてみたいとの想いからでした。京大で過ごした4年間は田舎育ちの私には見るもの、聞くもの、会う人が刺激的で、大きな失望はありませんでした。京大での学生生活がその後の人生に（決して勉強した領域ではありませんが）プラスになったと感じています。私には、お世話になった大学に少しでも恩返しができればとの思いがあります。「鼎会*」の趣旨に賛同してメンバーになったのもその一つであり、また、昨年法科大学院から法律の専門家でもない私に外部評価委員就任の打診があり、お引き受けしたのもそうです。昨年末、懐かしの法経教室を訪れ、ロースクールの模擬裁判傍聴や現役の大学院生と意見交換する機会があり、改めて京大の良さを実感しました。

学生時代で一点後悔していることは、時間に余裕のあった教養時代にもっと勉強をすればよかったとの思いです。3度の海外経験をしてきましたが、ビジネス上会う人達と深く付き合う中で、彼らは文学、歴史、哲学、芸術、科学などの素養が高い人が多いのに驚かされます。欧米に於いては大学ではリベラルアーツを中心に勉強し、実務に直結する法律や、経営学などの専門分野は大学院に行つて学ぶものだということも後年になって知った次第です。単位を取得しやすい科目中心に履修し、遊びほうけていた旧き良き時代(?)の教養部時代を思い出します。

ビジネス上感じるもう一点、

日本の場合文系、理系という色分けが高校からできており、大学からその後の就職に於いても文系、理系のキャリア分断が甚だしく、実業界でもそれが再生産されているように思われます。IT、AI、や最先端の技術革新など大きな変化が短期間で起こっている現代においては従来の文系、理系という枠組みに捉われた発想では課題解決が出来にくくなっているのではないのでしょうか。この点海外の大学では大学の学部間、大学院間の横のつながりが日本より進んでいると国際会議などに参加して思うことがあります。ある専門家から、海外の大学では学際領域が豊富に存在するため、文系領域と理系領域の分断は起こりにくいと説明を受けました。グローバルに活躍すべき大学である京大はこうした文系/理系のいわばハイブリッドの領域でも日本のリーダーであって欲しいと思います。

最後に私の現在の会社での京大つながりのエピソードをご披露して「寸言」を終わりたいと思います。昨年10月2日に当社創業100周年記念のトップマネジメントセミナーを開催しました。当日の特別講演者を山中伸弥 教授をお願いしていましたが、たまたま前日に本



庶 佑 特別教授のノーベル賞受賞が発表されたというビッグニュースがあり，セミナーは大盛況，山中教授のユーモア溢れる講演は感動的で参加された多くの企業経営者に大好評でした。ノーベル賞とは全く関係のない私ですが，多くのノーベル賞受賞者を輩出する京大の一卒業生としてこの日ばかりはちょっと嬉しい一日であったことは間違いありません。

* 鼎会は，京大卒業生財界トップによる総長支援団体です

（くぼ てつや，SMBC 日興証券株式会社代表取締役会長，昭和 51 年法学部卒）

[目次に戻る ↗](#)

随 想

今の京大と社会に願うこと： 時代の風潮に流されず 自由と寛容と独立を堅持して 多様な若者を育てる熱意

名誉教授 中辻 憲夫



名誉教授による「随想」執筆を依頼されたが、気の利いた面白い随想を寄稿するには、最近の世の中と大学の状況には、心配な動きが多すぎる。とはいえ、私が（年不相応に？）続けているツイートのように、具体的な問題点を指摘する場でもないので、私が最近感じている事を記そう。

私が現職教授だった10年ほど前までの世界は、各人の個性や多様性を尊重して、お互いに寛容に生き活躍できる社会を目指す機運が主流だったと思う。ところが、世界のあちこちで格差拡大や争いが起きる中で、大衆受けを狙い、論点を単純化した極端な意見を主張して、人々の対立を煽る事で、自らの力と利益を得ようとするポピュリズムが台頭して、世の中が悪い方向に進み／戻り始めたと感じている。

こんな時代にこそ必要なのは、単純化した主張や根拠怪しい情報に流される事なく、自分自身で情報を精査し熟慮して、自らの判断と主張を行う人間である。特に、社会の同調圧力が強い日本では、様々な風が吹く中でも自由で自立した考えを堅持できる人材が重要であり、それを育てることが、各分野の専門家を育てるのと同じく又はそれ以上に、大学に課せられた使命である。京都大学は「自由の学風」を尊重する大学として、その役割を果たして来た事を誇るべきで、今後も「自由の学風」を空洞化する事なく、堅持して頂きたい。

自由と独立の考えを大事にする人間は、自分と異なる意見や生き方をもつ人達を受け入れて共存できる。自由や多様性や寛容性を攻撃された時にも、怯まず守ろうとする大学や社会こそ、多様な人々が共存することで、困難な時代の中でも、最善の道を見つけ切り開く智慧と勇気が生まれる。然し乍ら、団体・組織や社会が表面的な秩序の維持を優先し固執して、異なる意見や生き方への非難や抑圧に走れば、その時代の主流が間違っていた場合でも、既存の方針を改める事なく、誤った方向への動きを止める事ができない。

私自身も京大の「自由の学風」に育てられた。地方から出て京大理学部に入學した私に自立の自信を抱かせた出来事は、吉田キャンパスの11月祭で、生命科学の学生サークルとして企画した、当時売り出し中のSF作家に頼み込んで成功させた「ヒトの未来」と銘打った講演会だった。単発的だったけど、200人規模の聴衆が埋めた会場を見て達成感を味わった。北部キャンパスでは、生命系学生で「分子生物学を超えて」というシンポジウムを開催した。1970年頃は分子生物学が先端分野として興隆の時代だったので、随分と背伸びした企画だが、当時の理学部教員の皆さんからの冷笑など皆無で、暖かい支援を受けた記憶だけがある。あの頃の経験が、発生生物学を専門分野に選び、今も神経系や、生物多様性や環境保全まで

随 想

興味をもつ出発点となった。

京大退職時には、私自身で何が出来るかを考え、「社会と次世代を担う若者を支援すること」を目的とする財団法人中辻創智社を設立して (<https://nakatsuji-ff.org/about/>)、重要だが支援不足の分野での若手研究者の研究費や会議費助成、理系出身の法科大学院生向け奨学金、恵まれない環境の子供達の学習支援などの公益的事業を行っている。国や社会の将来にとって最も重要なのが、多様な分野で活躍できる若者人材である。

京都大学は自由と寛容を重視して、独自性の高い、多様な人材を輩出してきた歴史を誇りとする大学であり、その優れた点を、短期的な狭い視野の判断で毀損する事が無いように、卒業生であり教員のひとりであった私としては、心底から願っている。

(なかつじ のりお, 平成 27 年退職, 元物質-細胞統合システム拠点教授 (設立拠点長),
専門は幹細胞生物学)

[目次に戻る ↗](#)

洛書

相棒は万年筆

米澤 進吾



研究者という仕事をしていると、意外と手でものを書く機会が多い。私の専門は、低温物性物理で、物質を日常の温度よりもずっと冷やしていったときにどのようなことが起きるのかを実験を通じて研究している。「物理実験」と「手書き」の関係にピンとこない方も多いかもしれないが、本稿ではあまり紹介する機会のない研究の一側面にスポットを当ててみたい。

まず、手書きが重要になるものとして、研究の命ともいえる研究ノートがある。最近ではコンピュータ上のノートツールなども出てきているが、やはり基本は手書きだと思う。特に、図や数式を書く場合はノートツールでは手に負えないことが多い。実験を計画したり実験結果を解釈したりするときは、頭の中にあるイメージを素早く表現するのが非常に重要で、それができるのが手書きの大きなメリットである。また、学会に出席すれば講演内容をメモする必要がある。デジタルカメラでスライドを撮ってしまうという人もいるが、最近は写真撮影を禁止する学会も増えてきている。何より、講演内容を理解するには「内容をかみ砕き再構築する」というプロセスが必要で、手書きのメモはそのプロセスを大いに助けてくれる。また、講演を聞きながら思いついたイメージやアイディアなども手書きなら素早く記入できるだろう。

以前は、これらに普通のボールペンを使っていたが、書くことに気分が乗らなかった。8年ほど前、仕事で訪れたパリで、ふと文具店に立ち寄ってWatermanの万年筆を買った。数千円のものでそれほど高価なものではなかったが、ボールペンに比べると圧倒的に書き味が良くてすぐに魅了された。それ以来、仕事の手書きにはほぼ万年筆を使っている。書くことが好きになるだけで、これほど仕事がしやすくなるのかと自分でも驚いた。大げさなようだが、人生を変える出会いの一つであった。学部生のころに出会っていれば大学の講義に行くのももっと楽しめたかもしれない。

万年筆の利点は書き味だけではない。最近は顔料インクという耐水性の高い万年筆用インクが多数売られている。これらのインクのすごいところは、水だけでなく溶剤にも強いという点である。理系の実験系の研究室ではエタノールなどの有機溶剤を使うことが多いが、もしボールペンで書いたノートに溶剤がかかるとその部分が読めなくなってしまう。実際そういう事故は何度も起きたことがある。一方、顔料インクであれば、いったん乾いてしまえば溶剤にも溶けないため、書いたものが消えてしまうことがない。従って、実験系研究室での研究ノート記入には特にピッタリなのである。

私たちの研究している超伝導や磁性などの物質現象の多くは、目では変化を認識すること

洛 書

ができない。しかしそこでは電子や原子の集団の性質が、厳然と変化しているのである。その変化に思いを馳せ、その謎を解き明かすために、今日も万年筆を紙に滑らせている。

（よねざわ しんご，大学院理学研究科准教授，専門は低温物性物理実験）

[目次に戻る ↗](#)

話題

平成30年病院長賞表彰式を挙

医学部附属病院は、3月29日（金）に病院長賞表彰式を挙行しました。今回が4回目の表彰式で、約200名の教職員が出席しました。

この病院長賞は、本院における教育、研究、診療、管理運営等について、極めて顕著な貢献があったと認められる若手教職員または診療科等を表彰する制度として設けられ、全12組の個人および団体の推薦の中から4組の受賞者が決定され、表彰されました。

表彰式では、稲垣暢也 病院長より、表彰制度設立の趣旨および受賞者の選出方法について説明後、4組の受賞者および受賞内容について発表があり、表彰楯が授与されるとともに、祝辞が述べられました。

また、表彰式終了後には引き続き稲垣病院長の退任式が行われ、盛況のうちに閉式しました。

平成30年病院長賞受賞内容

①パーキンソン病iPS細胞移植・治験支援チーム

パーキンソン病iPS細胞移植・治験支援チームにおいては、平成30年8月からパーキンソン病患者にヒトiPS細胞由来ドーパミン神経前駆細胞を移植する医師主導治験を開始しました。

iPS細胞を使った移植は、目に続き国内で2例目であり、パーキンソン病では世界初、iPS由来の細胞を移植する治験としては、今回が初めてです。

この治験の開始に至るまで、さまざまな準備を行い、治験の円滑な進行に費やされた支援業務担当者の努力は大変大きなものであり、新しい医療開発に向けた素晴らしい取り組みでした。

これらの業績により、本院の医療開発部門への貢献が認められました。

②河井昌彦 病院教授および近藤英治 准教授

本院の周産母子診療部および新生児集中治療部は高い専門性と豊富な人的資源、設備を兼ね備え、母児に対し安心安全な医療を24時間365日提供しています。

また、ハイリスク分娩・超重症新生児の取扱いを行っており、その取り扱い・受け入れ件数は京都府でもトップクラスの実績です。

河井病院教授および近藤准教授はそれらの高いレベルの母体および新生児治療に尽力するとともに、京都府総合周産期母子医療センター指定に向けて京都府との調整など中心的な役割を担いました。

その結果、本年2月1日付で総合周産期母子医療センターに指定され、今後さらに府民に対して安心で安全な周産期医療を提供できることが期待されています。



受賞した個人・団体の代表者の集合写真

話題

これらの業績により、本院の地域・社会貢献部門への貢献が認められました。

③事業継続計画（BCP）検討ワーキンググループ コア会議メンバー

本ワーキンググループにおいては、災害拠点病院として発災時の事業継続を可能とするBCPを整備しました。このBCPの作成によって災害対策が前進しただけでなく、各部門の災害に対する意識が飛躍的に向上しており、実際の発災時においても教職員はそれぞれの役割を認識して行動できるものと考えられます。

これらの業績により、本院における運営部門への貢献が認められました。

④経理・調達課と疾患栄養治療部

経理・調達課と疾患栄養治療部においては、直通路線バス「京大病院ライナー：hoop」の運行や職員食堂「ハートフルサロン」、一般用食堂「ハートフルダイニング」、「タリーズコーヒー」、焼きたてパンとお弁当「ハートフルベーカリー&デリ」のオープンなど、本院におけるアメニティの充実に寄与したことにより、本院における運営部門へ大きく貢献しました。

（医学部附属病院）

[目次に戻る ↗](#)

2019 年度宇治キャンパス新任教職員および新入院生等のための安全衛生教育を開催

宇治キャンパスでは、4月18日（木）宇治おうばくプラザ きはだホールにおいて、「2019 年度〔宇治事業場〕新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を開催しました。

この講習は、安全に職務や研究を行うために必要な安全衛生に関する知識を修得することを目的として、新たに宇治キャンパスで実習・研究を実施する新入院生、学部4回生、および新規配属の教職員等を対象に毎年実施しているものです。

今年度宇治事業場総括安全衛生管理者に就任した橋本学 防災研究所長による開会の挨拶に始まり、『宇治事業場の安全衛生』、『衛生管理者による巡視とチェックリスト』、『物理実験および計算機関係』、『日々



橋本所長による開会の挨拶



会場の様子

話題

の安全と危険予知等について』、『喫煙問題』、『健康管理・応急手当』、『生物実験および放射線取扱』、『化学物質管理および実験系廃棄物管理』、『実験排水』に関する説明があり、計285名(学生215名、教職員70名)の受講者は熱心に耳を傾けていました。

(宇治地区事務部)

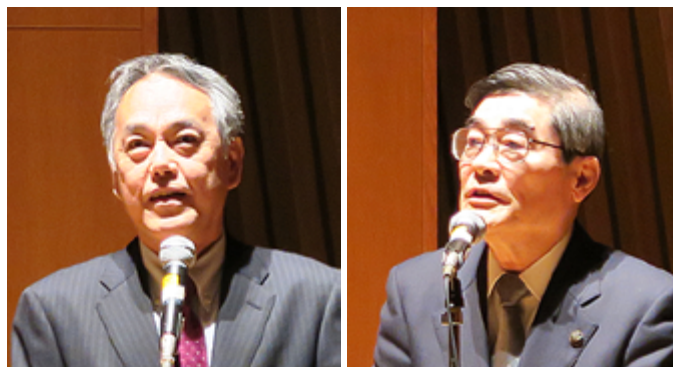
[目次に戻る](#)

宇治おうばくプラザで「第10回記念たそがれコンサート」を開催

宇治地区では4月19日(金)、宇治おうばくプラザきほだホールにおいて京都大学交響楽団アンサンブルによる「第10回記念たそがれコンサート」を開催しました。

このコンサートは、2010年4月2日に、前年10月に竣工されたおうばくプラザのこけら落とし記念コンサートとして始まり、好評だったことから、毎年春に開催してきました。

今回は、第10回の節目を記念して第1回、第2回の当コンサートに出演いただき、アンケート等で出演希望が多い京都大学交響楽団アンサンブルに演奏いただきました。



宇治地区世話部局長 橋本 学 山本市長による挨拶
防災研究所長による挨拶



京都大学交響楽団木管楽器アンサンブル



京都大学交響楽団金管楽器アンサンブル



京都大学交響楽団弦楽合奏

話題

また、連携協定を締結している宇治市より山本 正 市長も来場され、ご挨拶いただきました。
京都大学交響楽団の演奏は、木管楽器、金管楽器のアンサンブルと弦楽合奏で楽器一つひとつの特徴を感じられる編成で行われ、来場者は熱心に耳を傾けていました。
コンサート休憩中には協賛の、プラザ内にある「カフェレストラン きはだ」より第10回記念特別メニューが販売され、大変好評でした。
当日は、満席となる300名の方に来場いただき、地域の春の恒例行事として、今後も継続を期待する声が多くありました。

(宇治地区事務部)

[目次に戻る ↗](#)

2019 年度も新入生が、胸骨圧迫と AED の使い方を学びました！

2019 年度も、4 月 2 日（火）から 4 月 4 日（木）まで学部新入生および大学院新入生に、4 月 19 日（金）には留学生を対象として、40 分間の心肺蘇生・AED 講習会を実施しました。4 月の新入生ガイダンスにおいて全学部新入生に対する講習会を開始して、今年ではや 5 年目になります。

今年度は講習会の初日に、関西大学総合情報学部の村田忠彦 教授にお越しいただき、ご自身がマラソン中に心停止になり、社会復帰された話を伺いました。村田教授が倒れた時、偶然周りにいた方々が村田教授に胸骨圧迫を実施したことで、一命をとりとめました。学生たちは村田教授のお話を聞いて、自分たちもそのような場面に遭遇した時、胸骨圧迫などの救命処置を行うことで人の命を救うことができるということを感じてくれたのではないかと思います。学生たちは、いつも以上に真剣に講習会に取り組んでくれているように感じました。

新入生たちは、ガイダンス時に隣に坐った同級生と 2 人ひと組になり、胸骨圧迫と AED の使



2 人ひと組になり胸骨圧迫の練習を行っている場面

話 題

い方を学ぶためのトレーニングキット「あっぱくん®」を使って実習を行いました。講習会にはのべ200人以上の教員も参加し、新入生は同級生や参加した教員たちと協力しながら、胸骨圧迫とAEDのトレーニングを楽しく行いました。あっという間の40分間でした。

入学時に実施しているこの講習会の目的は、心肺蘇生のスキルを獲得することだけではありません。京都大学に入学してきた学生一人ひとりに、「いのち」の尊さを考えてもらい、また、困っている人を見かけたら声をかけ手助けができる心優しい人間になってもらいたいと願って、この「いのち」の教育を行っています。この講習会の翌週、偶然大学の近くで率先して救命処置をしている学生に遭遇しました。改めてこの講習会の意義の深さを感じています。

なお、4月の一連のガイダンスの中で実施した心肺蘇生・AED講習会は、国際高等教育院の統括のもと、医学部人間健康科学系専攻、環境安全保健機構、医学部附属病院救急部、同病院総合臨床教育・研修センター、理学研究科、人間・環境学研究科ほか多くの部局の教員によって運営されています。

(国際高等教育院)

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、片山健一 名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に同氏の略歴、業績等を紹介します。

片山 健一 名誉教授

片山健一先生は、3月29日逝去されました。享年91。

先生は昭和25年3月京都大学理学部物理学科を卒業され、同年6月大阪市立工業研究所に入所、昭和26年4月大阪市の技手として経済局工業研究所に勤務の後、昭和27年2月に旭化成工業株式会社に入社されました。昭和47年4月に京都大学化学研究所助教授に採用され、昭和53年1月に化学研究所高分子結晶学研究部門担当教授に昇任されました。平成3年3月定年退官され、同年4月京都大学名誉教授の称号を受けられました。退官後は平成3年4月から平成8年3月まで詫間電波工業高等専門学校校長、平成8年4月から平成10年3月まで平安女学院短期大学生活学科の教授として教育活動に力を注がれました。



先生は繊維の紡糸、フィルムの製膜など高分子の構造形成過程をX線回折により動的観察する手法、および、高分子結晶内の分子鎖一本一本を識別できる高分解能電子顕微鏡法を開発され、高分子構造解析の分野を先導されました。特に動的観察による、結晶化が始まる以前の融液中で構造化が進んでいることの発見、高分解能電子顕微鏡像に基づく高分子結晶中の秩序の乱れの解明は、先駆的な研究として世界的に高く評価されました。

これらの業績に加え、Polymer JournalのExecutive Editor, Journal of Macromolecular ScienceのAdvisory Board, Journal of Polymer EngineeringのEditorial Boardを務めるなど欧文学術誌の編集にも貢献されました。

(化学研究所)

[目次に戻る ↗](#)